

会 議 録

第 1 7 回定例会

開会 令和 7 年 1 月 2 3 日

教育委員会会議録

1 開 会 令和7年1月23日 午前10時

2 閉 会 令和7年1月23日 午前11時45分

1 教育委員会出席者

教育長	中川 齊史
委員	島 隆寛
委員	河野 暁
委員	岡本 弘子
委員	横田 賢二

4 教育長及び委員以外の出席者

副 教 育 長	松本 光裕
教 育 次 長	海老名 正規
教 育 次 長	眞相 秀也
教育政策課コンプライアンス推進室長	織野 明弘
教 育 創 生 課 長	藤坂 仁貴
教 職 員 課 長	西浦 利幸
義 務 教 育 課 長	長谷 彰彦
生 涯 学 習 課 長	新開 弓子
教 育 政 策 課 長	内海 はやと
教 育 政 策 課 副 課 長	櫻木 大介

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

教育長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 会議録を承認する旨を告げる。

[議 事]

教育長 議案第45号、議案第46号、議案第47号、協議事項1、協議事項2、報告事項1及び報告事項3を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《報告事項2 第5回通学区域制に関する有識者会議について》

教育長 報告を求める。

教育創生課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

島委員：先日、神山まるごと高専に視察に行った際、徳島県内から全体の1割くらいの生徒が進学していることを聞いたが、併せて、まるごと高専に行きたいという生徒がいても、一部の先生の進路相談の中で、ストップがかかっているということがあるという話をうかがった。徳島県においては、公立高校を不合格になる生徒の割合が少ないので、進路指導では、上位校に挑戦させるというよりは、学力に見合った学校へ進学を勧める傾向が強いと、聞くことが多々ある。要因としては、徳島県には他県にあるような進学実績やスポーツ実績を持ち合わせている私立高校が無いということもあり、どちらかというところではチャレンジするよりは安定志向な考え方に先生方がなってしまう、それを生徒に伝えている傾向が他県より強いということが一つあるのではないかと考える。できることならば、先生方が子供たちに挑戦させるような考えを持たせられるようにし、失敗しても受皿校があって、やり直しが効くというよ

うな制度設計にすることが必要ではないだろうか。リスクと安定がある入試において、子供の可能性に大人たちが蓋をするような考え方を押しつけるのは良くない。大人たちの考え方を変えなければいけないと思う。今回の通学区域制の変更というのは、そのような根っこの部分を変えるという意味もあるのかなと捉えている。チャレンジした生徒がやり直せる制度を整えることは大人の役割であり、生徒の挑戦しようとする気持ちを大切にしなければいけない。

岡本委員：アンケートの結果がこのように出ている以上、やはり不公平感が払拭されなければいけない。また、学校選択の自由を図っていかなければいけないと思うので、このことについては、早急に段階的に計画を立てて進めていかなければならないと思っている。また、アンケートの回答で、高校を選ぶ際、中学生やその保護者、教員が何を重視しているかという「学力」という結果であり、「教育課程」はあまり表に出ていなかった。神山まるごと高専では、いきいきとした教育活動が行われていたり、県内の高校でも、特色化や魅力化が図られていたりしているが、「学力」を重視している状況というのは、とても残念である。県としてどんな人材を育成しようとしているのか、高校や中学校でも見据えた教育をしていく必要がある。まだ学力を付けて入試対策をして、高校に受かるようにするということが第一になっている感じを受ける。今、特色化・魅力化を多くの学校で進めており、探究活動が新聞などでも報道されている。本当に社会に参画していくような、地域を変えていくような探究活動がなされることを期待している。まだ、始まったばかりなので、そこはこれから開発していくと思うが、徳島県を変えていくような、徳島県を活気づけていくような探究的な活動がなされたら、もっと魅力的な学校になるのではないかと考える。高校も中学校も併せて、どういう人材を育てていくのかということを確認にして、何のために活動をし学力をつけるのかが分かるような教育であってほしい。また、少子化が進む中で、将来の学校の在り方を示す際には、どのように学校が再編されるのか具体的な案を明示することが必要なのではないだろうか。

河野委員：資料の中にある市町村教委の意見を見ると、地元の高校は残して欲しいことや地域によって様々なことが書かれている。今後、校舎の築年数を考慮すると、校舎の建て替えなどが必要なことを考えながら、高校の統廃合を進めることについては地域の理解を得ることも必要であるが、ある程度県下全域を考えて、英断を下すことが必要ではないだろうか。難しい問題であると思う。また、アンケートの結果を見ると、生徒はあまり意識してい

ないが、保護者はやはり経済的な負担を考えている。そのあたりの子供の理解も必要なのかなと感じている。

横田委員：比較的、短期間で有識者会議の中で、意見をまとめていると感じている。想定される質問に対して具体的なパターン案を資料として提示しているが、最終的に、移行措置は流入率の変更ということで決定するのか。

教育創生課長：先日の第5回会議では、令和11年度入学者選抜から通学区域制を撤廃することと、移行措置については流入率の変更が良いのではないかとということが確認されたところである。次回の第6回会議ではそれを前提として、流入率の引上げ幅について検討することとしている。

横田委員：校舎の老朽化や人口の減少など取り巻く環境が変わってくることと、今回の通学区域制の見直しをどのように関連付けていくのか。

教育創生課長：11月議会においては、高校の在り方について早急に検討するべき時期にきているというやりとりもあり、来年度、在り方の検討を本格的に進めていくこととしているが、具体についてはこれからである。有識者会議の中でも、高校の在り方の方向性について意見をいただいているので、今回の報告書を踏まえ、次年度の検討につなげたいと考えている。

横田委員：徳島県では私立高校が少なく、ほとんどの生徒が公立高校に通っている現状がある。神山まるごと高専では、髪型や服装は自由であり、生徒は自由奔放に見え、また、全国から集まってきていることから視野も広がっている。いろいろなところから集まってきた生徒たちが、卒業後どのようなことを徳島や全国に対して発信してくれるのか、期待するところが大きい。

島委員：神山まるごと高専では、生徒を一人の大人として接している。何かを選択することによって不都合が起こってもそれは自分で責任を取らなければいけないというマインドを大切にしているのだと感じる。受検においても、自分の選択による結果については受け止めないといけないということを15歳くらいから教えることが、大学受験や就職、今後の人生の選択をする際に役立つのではないか。18歳から成人なので、選択することが増えてくる。若い段階でうまくいったことや失敗したことなどを経験していることが、将来、振り返ったときに良かったと思えるのではないか。自分の選択に責任を持ちなさいという大人が増えてくれば良いのではないだろうか。

岡本委員：通学区域制の見直しについて、どのようなことを実現することが望ましいかというアンケートの回答で、高い割合を占めている「学校の選択の自由」などは、学力に関してだけ意識した結果のように感じる。自分の人生の歩みや学びを選択できるような教育を中学校で行うことが重要だと考え

る。高校が変わっていくことはもちろんだが、中学校では、自分たちの行きたい高校に向かって学べる教育をしなければいけない。中学生でも様々な世界で活躍しているのを見ると、いろいろな選択肢をみせてあげることが必要ではないか。

横田委員：令和11年度入試からの撤廃や流入率の変更などの具体を示すことは、これから小学校、中学校、高校に入学する人に周知できるので良いと捉えている。

河野委員：流入率の引上げや全県一区となると、不合格者が多くなることが想像される。その場合、その子供たちの精神が持つのかなということが心配である。今までがほとんど不合格者が出ない状況であったのが、これがどんどん増えていくこととなるので、中学校の教員もそのような子供たちの精神的なケアを考えていくことが必要になってくると思う。

[非公開]

《議案第46号 令和6年度徳島県藍青賞の受賞者について》

《議案第47号 徳島県立学校使用料、手数料徴収条例の一部を改正する条例について》

《協議事項1 職員の処分について》

《協議事項2 職員の処分について》

《報告事項3 服務上の措置の実施状況について》

《報告事項1 公益通報の受付・処理状況について（令和6年10月から12月分）》

《議案第45号 徳島県学校職員定数条例の一部を改正する条例について》

[閉会]

教育長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉会 午前11時45分